

白樺の森と生活者を結び
持続可能な世界を目指す

北海道に住む私たちにとって、「白樺」はとても身近な樹木だ。白く、美しい佇まいから「森の麗人」とも呼ばれるそうだが、その用途はバルブ用チップや割り箸、アイスのスプーンくらいのもので、林業的価値は低いとされてきた。家具の用材や建材としては、ほとんど流通していないのが現状だ。

アイヌやサミなど、森とともに生きてきた北方の諸民族は、昔から幹や樹皮は薪や焚き付け、工芸品に、葉はハーブや染料、樹液を健康飲料などに利用してきた。フィンランドのサウナに欠かせない白樺の小枝を束ねた「ヴィヒタ」は、体をたたくことで、血行促進、殺菌、保湿に効果があるとされ、枝葉に含まれる精油の爽やかな香りが、心身のリラクセスを促すのだとか。

白樺は、山火事や伐採などで裸になった土地に、最初に生えてくる「パイオニアツリー」だ。他の樹木が数百年、長いもので数千年生きるのに対して、白樺の寿命は70年ほどと、人間とほぼ同じ。荒れ地に一斉に生えた白樺の林は、厳しい自然環境から他の樹種を守り育てる揺り籠のようなもので、やがてさまざまな樹種が育つ混合林となり、その寿命を終える頃には、昆虫、野鳥、動物など多彩な

広がっています パイオニアツリー 白樺の恵み

北海道ではとても身近な樹種「白樺」。幹や枝、葉、樹皮、樹液、根まで、余すところなく活用できるカムイからの贈り物だ。この白樺を軸に、持続可能な世界を目指す取り組みが進んでいる。

白樺樹液「森の雫」を生産する
松山農場(美深町住吉)の白樺林。毎年4月には「美深白樺樹液春まつり」が開催される



「白樺は神様からの贈り物です」と話す白樺プロジェクト代表理事の鳥羽山さん(東川町・木と暮らしの工房代表)

生き物をも育む、豊かな森となる。他の多くの樹木が100年とか200年たたないと、林業的には価値が低いのに対して、白樺は50年ほどで木材として利用できる持続可能な資源だ。そんな白樺を再評価し、森と生活者を結び、産業として、文化として根付くことを目指しているのが、平成31年11月に始まった「白樺プロジェクト」である。メンバーは林産試験場の職員、大学教授、家具職人、建築関係者、木こり、デザイナーらで構成され、昨年開催された旭川の家具を中心とした見本市「旭川デザインウィーク(ADW)」では、白樺プロジェクトのブースを設置し、白樺の家具やクラフト製品などを展示。大きな反響を呼んだ。今年6月には、趣旨に賛同するハーフ農家の協力で、ハーフテイル用にする白樺の若葉を採集するワークショップを開催するなど、さらなる有効活用を模索している。プロジェクトの代表理事で、東川町で家具工房を営む鳥羽山さんは「白樺の可能性は未知数。一時的ブームで終わらないように、今は長く売れるための仕組みづくりをしているところだ」と話す。白樺と人が関わり、その恵みを得ながら守っていくことは、森を再生し、持続可能な世界を築くことにつながっていく。50年後、100年後の世界を見据えたこの取り組みは、まだ始まったばかりだ。



「白樺は『森のかさぶた』。荒れ地に最初に生えて、森を修復してくれるんです」と清水さん。風太くんの学習机になった白樺の切り株に寄り添い、ねぎらうように話してくれた



上/ 里山部の白樺で製作した学習机。机の製作は「森を守る家具職人」の原弘治さん、椅子と足台は樹液工房の杉達浩昭さん

下/ 風太くんは木を選ぶところから、伐採、製材、乾燥、製作と全てに関わってきたとか

里山部 旭川

未来の豊かな森を夢見て 環境保全型林業を実践

里山部代表の清水省吾さんは、所有する旭川市の山林で木を伐採し、薪にして販売するなど自伐型林業を実践している。高く売れる木は伐らない。「山の本質」は木の値段ではなく、文化的、歴史的、生態学的価値にあると考えているからだ。

「この山には10種ものコウモリがすんでいます。コウモリは豊かな森の指標なんです」。そんな清水さんが伐るのは、もっぱら白樺だ。

それぞれ木の寿命を尊重し、長い年月をかけて他の木が育つまでの期間、成長の早い白樺の命をいただくのである。白樺は薪の他、家具用材としても販売する。昨年はこの山の白樺で、息子の風太くんの学習机を作ってもらったとか。「環境保全型林業の新しい北海道モデルをつくりたい。300年後の豊かな森を夢見てね」と清水さんは笑う。この考えに共感し、林業を始める若者も増えているそう。



1/ 里山部入口の風景。この先には清水さんが木を1本も伐らずに森の隙間を縫うように作った「新しい林業のための作業道」もある

2/ 考え方に賛同し、一緒に仕事をする関那々子さんと。関さんはカナダでアーボリスト(樹木医、高木剪定の専門家)の修業をしていた

3/ 代表の清水さん。里山部では森の遊び、宿泊、薪販売、庭木伐採なども行っている





1/ 工房の外観。美瑛町の東川町側、朗根内部郵便局のある三差路の角にある。訪れる際には事前に連絡を

2/ 工房に隣接するショールーム。作品にじかに触れ、無垢の木のぬくもり、質感を感じることができる。見学を希望する場合は事前に連絡を

3/ 大型の木工機械が並ぶ広い工房。取材時は里山部が切り出した白樺材で椅子を製作しているところだった

4/ 家具に使用する予定の白樺材。「HUR 19」は、産地の1つ北大雨龍研究林で2019年に伐採したという意味だ

白樺を使用した「Retakkar (レタッカ) シリーズ」のダイニングセット(白樺+アイアン)。テーブル20万3500円。チェア1脚5万2800円。芯の赤い部分や樹皮を生かした個性的な作品に仕上がっている

「家具に適した木材は、年々手に入りにくくなってきているんです。良質な木は伐り尽くされ、林業は衰退し、山村の過疎化も進んでいます」。工房代表の鳥羽山聡さんは、こう嘆く。そして、「でもね、白樺ならこれを解決できるかもしれないんです」と目を輝かせた。

家具作りに好適なのは、木目が美しく、丈夫で摩擦にも強いナラやカエデ、サクラなどが、鳥羽山さんが白樺で試作してみたところ、強度ではサクラと同等、表面が多少傷つきやすいのが難点だが、十分使えることが分かった。試作を重ね、白樺の特徴を生かした作品を昨年の旭川デザインウィークに出品したところ、あまりの反響に鳥羽山さん自身、驚いたそうだ。白樺の再評価が進めば林業は変わり、そこに連なる人々の価値観や働き方も変わる。白樺は「今だけ、カネだけ、自分だけ」の世界を変えるカギとなるかもしれない。

白樺は森のピンチヒッター クリーンナップは50年後

きりん
樹凜工房
美瑛



白樺プロジェクトの副代表理事を務める杉達さん。「白樺は森を再生するための優秀なピンチヒッター。50年くらいのスパンで流通させていけば、クリーンナップとして活躍してくれるはずですよ」



●樹凜工房● 上川郡美瑛町字朗根内町内 電話：0166-96-2448
営業時間(ショールーム)：10:00~16:00 定休日：不定休 P 3台

匠がこころをこめて
白樺の恵み



「家具に適した木材は、年々手に入りにくくなってきているんです。良質な木は伐り尽くされ、林業は衰退し、山村の過疎化も進んでいます」。工房代表の鳥羽山聡さんは、こう嘆く。そして、「でもね、白樺ならこれを解決できるかもしれないんです」と目を輝かせた。

家具作りに好適なのは、木目が美しく、丈夫で摩擦にも強いナラやカエデ、サクラなどが、鳥羽山さんが白樺で試作してみたところ、強度ではサクラと同等、表面が多少傷つきやすいのが難点だが、十分使えることが分かった。試作を重ね、白樺の特徴を生かした作品を昨年の旭川デザインウィークに出品したところ、あまりの反響に鳥羽山さん自身、驚いたそうだ。白樺の再評価が進めば林業は変わり、そこに連なる人々の価値観や働き方も変わる。白樺は「今だけ、カネだけ、自分だけ」の世界を変えるカギとなるかもしれない。

家具作りの現場から発信 白樺は世界を変える

木と暮らしの工房 東川



1/ 京都の複合施設に納品予定のカウンターを仕上げる鳥羽山代表。北海道大学雨龍研究林から伐り出した樹齢60年の白樺を使用している

2/ 「LAKANVA 樹皮シリーズ」。ラウンジテーブル41万8000円、ラウンジスツール6万3800円、ラウンジベンチ17万6000円。写真は札幌市の保育園に納品されたもの

3/ スタッフに指導する鳥羽山さん。「良いものを早く作れるように育てたい」

4/ 左から、牧野浩一さん、齋藤れなさん、鳥羽山代表、高橋友芽さん、宮本浩司さん

5/ 東川町の工房。現在、白樺材を乾燥するための倉庫を建てているところだそうです



●木と暮らしの工房●
上川郡東川町西11号北29 電話：0166-73-9202 P あり



1/スタイリッシュなギャラリー空間。7月3日～8月30日は「ウラヤマクラシテル夏の企画展」が開催される



2



3



4

- 2/白樺の木灰を使った釉薬。10年ほど試行錯誤を重ね、納得できる仕上がりにたどり着いたという
- 3/元大浴場のスペースに、れんがと土を積み上げ、自作した登り窯
- 4/工藤さんは神奈川県出身。高校時代に陶芸にのめり込み、朝ドラ「スカーレット」のモデルになった信楽焼作家の神山清子さんに、卒業と同時に弟子入りした

白樺から生まれる 唯一無二の「白」の引力

ウラヤマクラシテル 旭川



「白樺刷毛目」のたわみ8寸皿(手前) 8000円、マグカップ(左) 3500円、そばちょこ(奥) 3000円、「白樺ホワイト」の平片口豆鉢3500円(右)。夏の企画展では、このシリーズを含め、約500点の工藤さんの作品が展示される予定だ



薪窯で焼成した「白樺粉引」の大壺30万円。工藤さんのギャラリーでひとときわ目を引く大作である

旭川郊外、陶芸家・工藤和彦さんのギャラリー＆工房は、突峭山中腹の深い森に囲まれて佇む。忘れ去られたように立っていた「旧旭川温泉」を15年かけてリノベーション。平成29年、人、モノ、アート、文化を発信する「ウラヤマクラシテル」としてよみがえらせた。国内外にファンを持つ工藤さんの作品は、どれも北海道の自然が原点。剣淵町で出合った太古の粘土を自ら掘り起し、北海道だから

こそ作れる焼き物を追求する。注目すべきは白樺灰の釉薬を使うシリーズ。野趣と繊細さが絶妙なバランスで溶け合う「白樺粉引」、柔らかな白さと木肌のような模様が印象的な「白樺ホワイト」、稲穂で模様を描いた「白樺刷毛目」は白樺の樹皮を思わせ、いかにも北海道らしい。一つ一つ表情が異なる、凛とした「白」は、自然と呼応しているような息吹が感じられる。

敷地面積4000坪。すぐそばに白樺林が広がる



●ウラヤマクラシテル● 旭川市東山2857-58 電話：090-6211-1797 営業時間：13:00～17:00 定休日：週1回不定休 ※ホームページの営業日カレンダーで確認を ※展示替えと作品制作のため、7月2日まで休業 P 20台 <https://urayama.org/> ※価格は税別



2



1

- 1/2町と600坪の畑で40種類のハーブを栽培。畑を耕すのにトラクターを使うが、植え付けと収穫は全て手作業で行う
- 2/ハーブを乾燥する小屋で作業をする石田さん。取材時は、数日前に白樺プロジェクトのワークショップで、メンバーと採集した白樺若葉の乾燥作業中だった
- 3/ハーブ畑の中に立つログハウスの小さな作業小屋。裏手には森が広がっている
- 4/蒸留器で、白樺ハーブの精油を精製する石田さん。「植物に全身全霊で向き合っているのには、理由があります。自分がブレなければ、製品もブレません」



4



3

ハーブ農家が考える 地球環境とハーブの関係

リアン Lien 旭川



石田佳奈子さんは、大学在学中に1年間オーストラリアを旅し、農場体験を通してオーガニックや環境意識に目覚めたという。卒業後はハーブの本場フランスに渡り、ハーブ農家で12年修業。3年前に帰国し、旭川の山奥でハーブ農家を始めた。広大な畑を1人で耕し、農薬や化学肥料を使わずにハーブを育てる。除草、摘み取り、仕分けなど全て手作業だ。「フランスのハーブ農家は加工、

販売まで行います。治癒力の高い製品作りは、環境に配慮するライフスタイルを実践することで可能になるんです」と石田さん。世界中で起きている気候変動も、原因は人間にあり、地球を癒やすには、まず人間を癒やさないと、と石田さんは考える。ハーブと向き合う石田さんの生き方そのものが魅力的なのだ。白樺の薬効、植物療法の観点から、白樺プロジェクトへの協力も惜しまない。

白樺の芳香蒸留水「ホワイトバーチウォーター」1500円(100ml)、右上は白樺をブレンドしたハーブティー「はるのおとずれ」1300円(25g)、下は「白樺ハーブティー」600円(15g)

●Lien● 旭川市西神楽南16号355 <https://www.lienaroma.com/> P あり



代表の逸見吏佳さん、夫の暁史(さとし)さん。
羊は名前を付けてかわいがっている



工房の外観。馬小屋だった建物を自分たちで改装したようだ。裏手には逸見さんが世話をする羊牧場がある



白樺染めのジャケットやワンピースなども。アトリエは今、白樺染めの作品で、全体的にピンクっぽくなっている



上/しっぽショール1万9100円。
手前のピンクは白樺の樹皮、黄色は白樺の葉から煮出した染料で染めている。1点1点、微妙に色合いが異なる

下/染料を煮出した後の白樺の樹皮。「幹が太いものだと特に色が良くて、媒染剤を変えることで、さまざまな表情が出るんです」と逸見さん



羊毛を白樺で染めた
優しい色、優しい着心地

ボタンを留めるとマントのようになる
ボタンショール5万3500円。クルミの実染めと白樺樹皮染めのグラデーションが洒落ている。上部をフェルト、下部をコットンで仕立てたワンピース、男性向けのジャケット、ロングコートなどもある

工房では、羊毛フェルトでショールやマントなどを製作している。白樺は染料にする他、幹はデイスプレーや薪に、葉はお茶にと余すことなく使っている。「作品に使った白樺は、義父が生まれた時に植えられたものなんです。義父には今年、この白樺で細工を作ったプレゼントしようと思って」と逸見さん。さぞかし喜ぶことだろう。

昨年の夏に訪ねた時、工房の外では代表の逸見吏佳(りか)さんが、薪ストーブに載せた大鍋に白樺の樹皮を入れ、染料を煮出しているところだった。そして今回、1年ぶりに訪問すると、ふわりと優しいピンクや、黄色のフェルト作品が迎えてくれた。ピンクは白樺の樹皮、黄色は葉っぱの染料で染め上げたのだとか。「この周辺の木で試してみても、一番きれいに色が出たのが白樺でした。染めていると、白樺の甘い香りがするんですよ」と逸見さん。

そせいそうどう
粗草堂
美深

●粗草堂● 中川郡美深町字辺深285-5 電話:01656-9-1936
営業日:6~10月の日・月曜 営業時間:10:00~16:00 あり ※価格は税別



- 1/美瑛駅から徒歩3分ほどの中心街にある
- 2/テークアウトコーナー。飲食は店前のテラス席を利用OK
- 3/白とグレーを基調にした店内。左奥の喫茶室は、9月まで企画展の会場となっており、テークアウトのみ対応
- 4/デザインも風合いもすてきな白樺のライト



白樺細工の器で提供されるバインミー(ベトナムサンドイッチ)。写真は自家製スモークハムと野菜のサンド530円



白樺をイメージした白樺ソフト480円。美瑛牛乳と美瑛産小豆あんを使用

白樺の命を再びカタチに
長く使える暮らしの道具

白樺の恵み
バリエーションが豊富

美瑛町のシンボルツリーに指定されている白樺の樹皮で、雑貨を製作している崎山雅恵さんの店。店内には白樺の樹皮で編んだ籠や鞆、アクセサリ、崎山さんの父が手掛けた曲げワッパなどが並び、白樺の樹皮細工はもともと北欧やロシアで盛んな伝統工芸で、崎山さんは現地から古書を取り寄せ、独学で学んだとか。原料の白樺樹皮は、崎山さん自ら山に入り、間伐された白樺から調達する。「乾

燥した土地だと樹皮が硬く、湿り気のある土地だとみずみずしく美しい。1本1本表情が違うんです」と崎山さん。
今年1月には店内の一角に喫茶「木と星(ぼし)」をオープン。メニューは、美瑛産の食材を生かしたサンドイッチや、白樺をモチーフにしたソフトクリームなど。5月9月はさまざまな作家の企画展の会場となるため、利用はテークアウトのみとなっている。

スイノカゴ/喫茶 木と星
美瑛



崎山さんの作家名は「SUI(スイ)」。アイヌ語で「再び」という意味だそう。間伐され、一度終えた白樺の命を、樹皮細工で再び形にするという意味で名付けたとか。「白樺の樹皮細工は、丈夫で水に強く、長く使い込むことで風合いが増し、良い感じのあめ色になっていくんです」とも

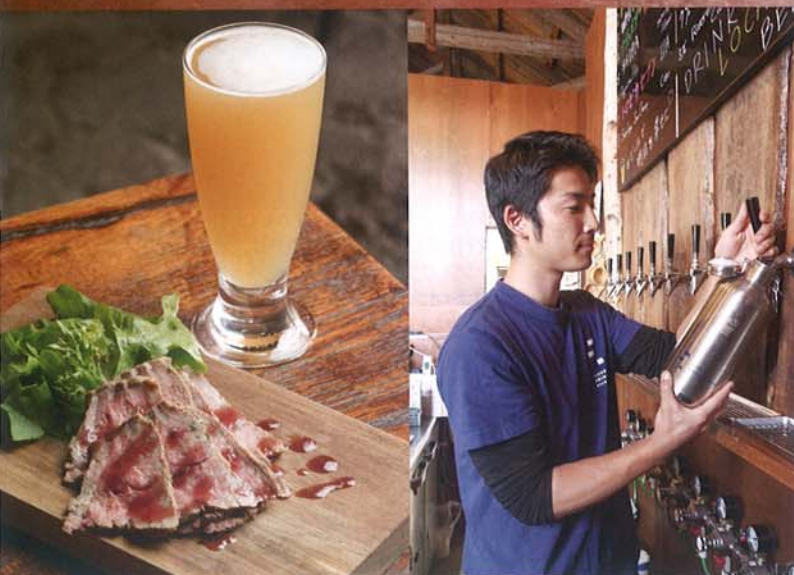
右奥から時計回りに、手提げカバン2万5000円(受注生産)、テーブルカゴ8000円、トレイ8500円、ワッパ(大)1万円、ワッパ(小)2000円、ワッパ(中)4000円、カゴ(大)3万円、カゴ(小)1万5000円

※いずれも参考価格。今年は新型コロナの影響で白樺樹皮の調達が難しく、掲載した商品がない場合もある

●スイノカゴ/喫茶 木と星● 上川郡美瑛町中町1丁目4-34 電話:090-6260-1701
営業時間:11:00~17:00 定休日:木曜 あり ※価格は税別



右から、店長の門田達也さん、ビール醸造担当の風間健さん、松山農場とこを兼任する佐橋朋幸さん。平均年齢24・6歳の元気なスタッフだ。全員、彼女募集中心だとか



左/水牛のローストビーフ820円とトイタピウカ・ファームハウスエール。松山農場では白樺樹液の他に野菜、羊肉、国内で唯一水牛肉を生産している。ビールはS(210ml) 550円、M(310ml) 770円、L(420ml) 990円

右/クラフトビールは1mlにつき2円でテイクアウトも可。持ち込んだ容器か、レンタルのグラウラー(ステンレスポット)に詰めてくれる。一度に10ℓ購入する人もいます

白樺の樹液は、そのまま飲んでおいしい、ウイスキーの水割りに使うと味がまろやかになるらしい。そこで誕生したのが、仕込み水に白樺樹液を使った世界でも珍しいクラフトビール。昨年6月にオープンしたRestaurant BSB(美深白樺ブルワリー)で味わえる。

使用する白樺樹液は仁宇布で採取したもの。現在、樹液は仕込み水の2〜3%だが、今年の秋ごろには100%のビールもお目見えする予定だとか。

日本最北ブルワリーの白樺樹液クラフトビール

美深白樺ブルワリー
Restaurant BSB
美深

無垢の白樺材を使ったテーブルや椅子は白樺プロジェクト代表理事で「木と暮らしの工房」の鳥羽山さんが製作。店内奥には醸造所が併設され、ガラス越しに見ることができる



築92年の赤れんが倉庫を活用した日本最北のクラフトビール醸造所。日曜と月曜は松山農場の柳生さんが店を担当する



1/樹液の採取は、直径25〜30cmの白樺の幹に小さな穴を開け、チューブとバケツをセットする

2,3/一晩に採れる樹液の量は白樺1本につき20ℓ弱。4〜5月に農場内の白樺1500本ほどから約60ℓの樹液を採取。ろ過、殺菌処理をして出荷する。樹液を採取した後の白樺は、木栓を打ち込んで穴をふさいでおくそう

「樹液採取は、自然が相手なので難しいです」と柳生さん。土地への愛着は強く、山村留学の面接官もしているそう

ファームイントント。営業は6月中旬〜11月ごろ。宿泊は1日1組、料金は2人以上1泊1人7700円、1人の場合8800円



白樺樹液ミストローション「雪と白樺」1800円。白樺樹液にヒアルロン酸、コラーゲンを配合。問い合わせはナチュラルアイランド(0120・9292・81)

白樺樹液飲料「森の雫」280円。ファームイントントで販売する他、アマゾン、楽天市場などでも入手可能(オープン価格)

白樺の恵み



白樺の恵み「森の雫」で明るく健やかな毎日を

松山農場
ファームイントント
美深

白樺の樹液を飲んだことはあるだろうか。透明で、ほのかに甘く、アイヌの人たちは、木立の間にまだ雪の残る早春にこれを集め、そのまま飲んだり、料理の煮炊きに使ってきたそう。その白樺樹液をおそらく世界で初めて清涼飲料として製品化したのが「森の雫」。美深町仁宇布にある松山農場の白樺林で採取されている。

「樹液採取は、自然が相手なので難しいです」と柳生さん。土地への愛着は強く、山村留学の面接官もしているそう

●松山農場 ファームイントント ● 中川郡美深町字仁宇布660
電話: 01656-2-3939 ●あり ※価格は税別

●Restaurant BSB ● 中川郡美深町字大通北4丁目9 電話: 01656-8-7123
営業時間: 12:00〜22:00 定休日: 無休 ●16台